



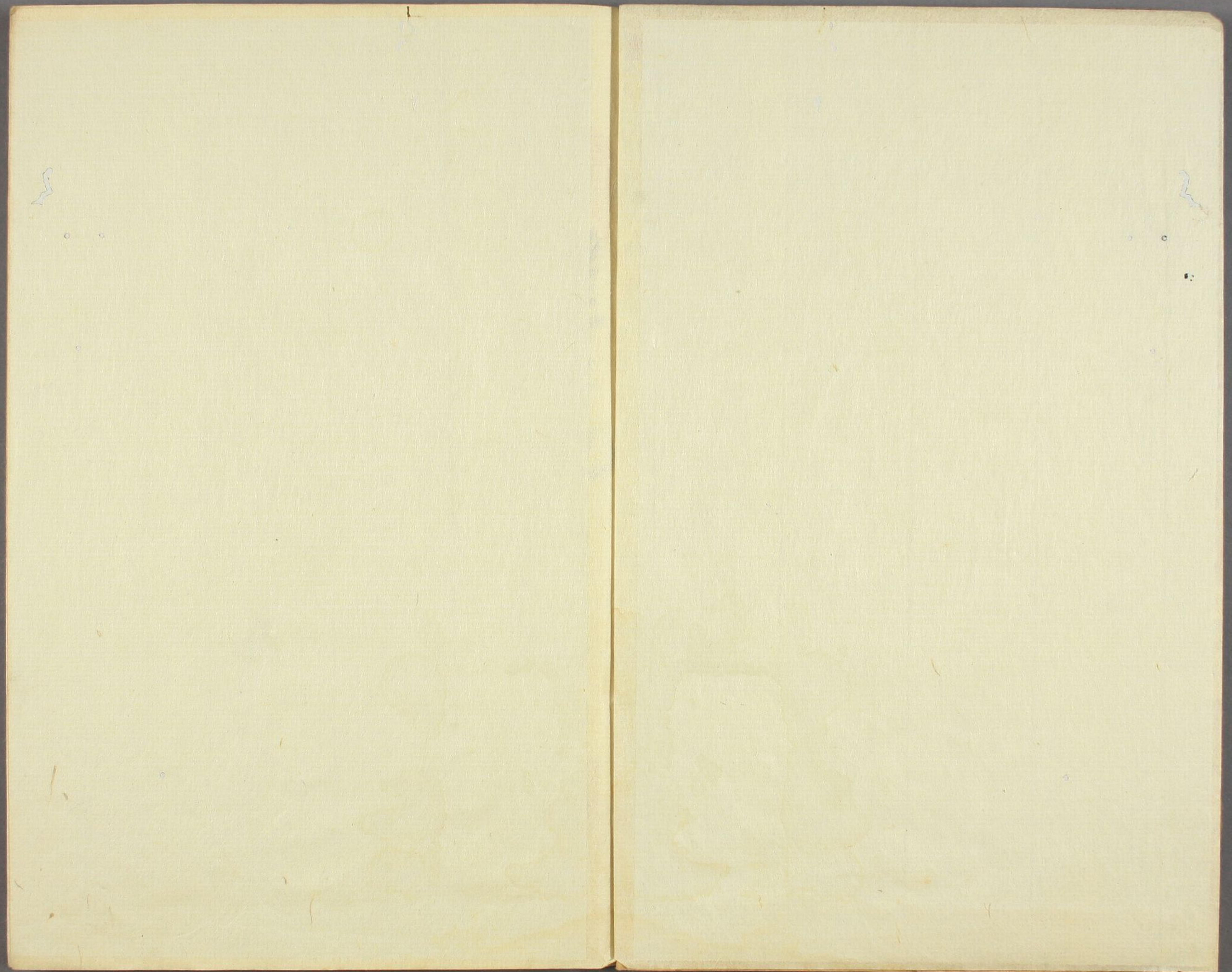
舞御覽記

正元元年三月五日

西園寺行幸

全







華洲傳記

九曜文庫

弘安の皇極なるの故入道実弟子と云ふ

吾も大失を以て居りて是れも是れも是れも  
一系に於ては是れも是れも是れも是れも  
此の如くは是れも是れも是れも是れも  
の如くは是れも是れも是れも是れも  
舞所傳入ありと申すは是れも是れも是れも  
中家ありと申すは是れも是れも是れも  
中家ありと申すは是れも是れも是れも  
中家ありと申すは是れも是れも是れも  
中家ありと申すは是れも是れも是れも



















明考  
院之紀  
見後序通集也

弘安八十五新院御所  
院新奉天皇幸同日  
幸徑吉社布引龍寺  
歷制和歌序者止位  
行禮大納言兼春宮  
大夫実業之干法曹  
幸相國

庭花の香中納言の御所  
御所南庭の御所  
弘安八十五の御所  
院新奉天皇幸同日  
幸徑吉社布引龍寺  
歷制和歌序者止位  
行禮大納言兼春宮  
大夫実業之干法曹  
幸相國

院新奉天皇幸同日  
幸徑吉社布引龍寺  
歷制和歌序者止位  
行禮大納言兼春宮  
大夫実業之干法曹  
幸相國



あけのぼりたまはとて家おほくはなまはら  
照るこほりて歌とる紅くはあまのこほり  
二階のまはらとて女は中子にまはら  
まはらけ行はらとて内は神のまはら  
まはらけ行はらとて内は神のまはら  
まはらけ行はらとて内は神のまはら  
まはらけ行はらとて内は神のまはら  
まはらけ行はらとて内は神のまはら

玉上

女院

中宮

前園白反

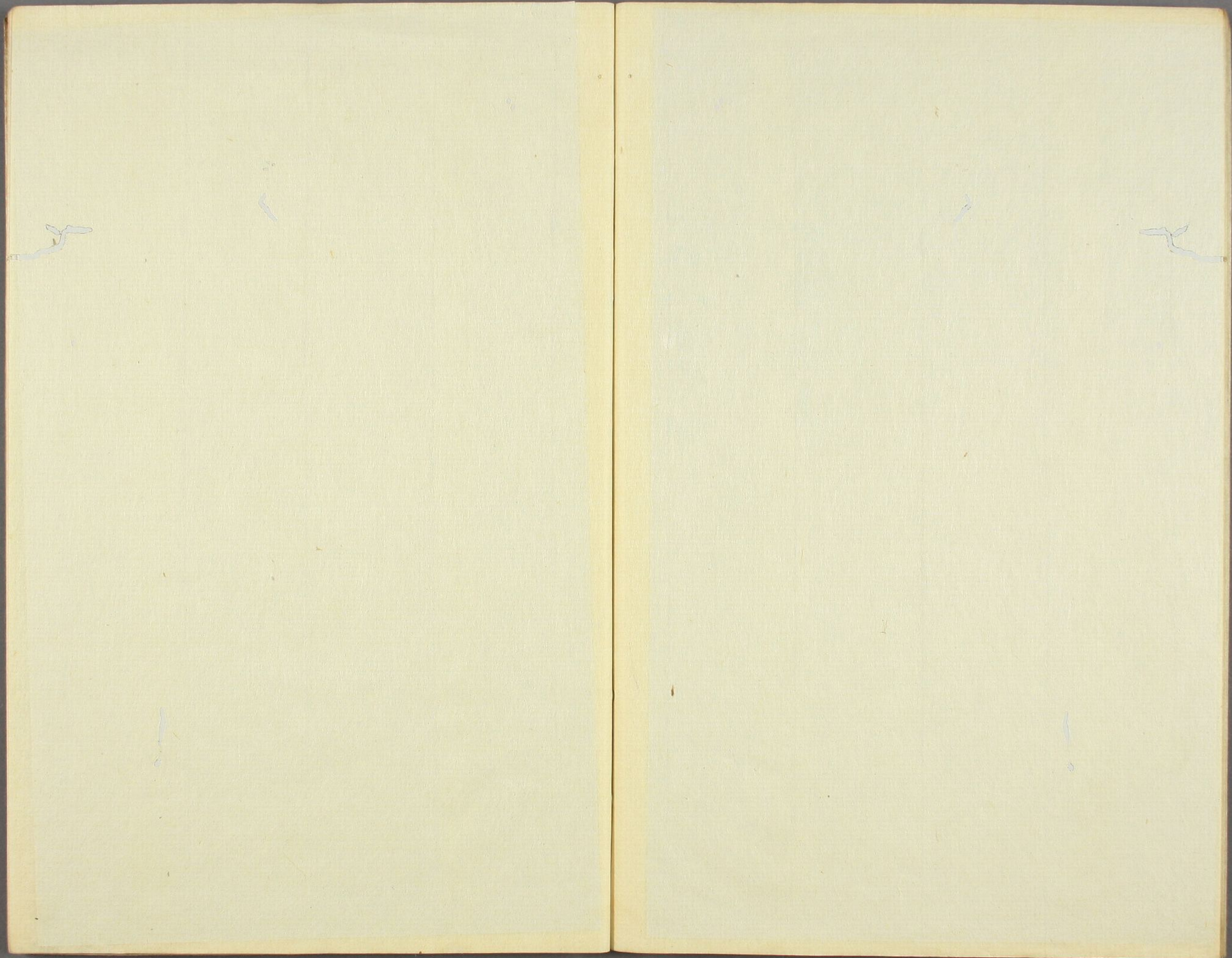
春官集大成

中務官

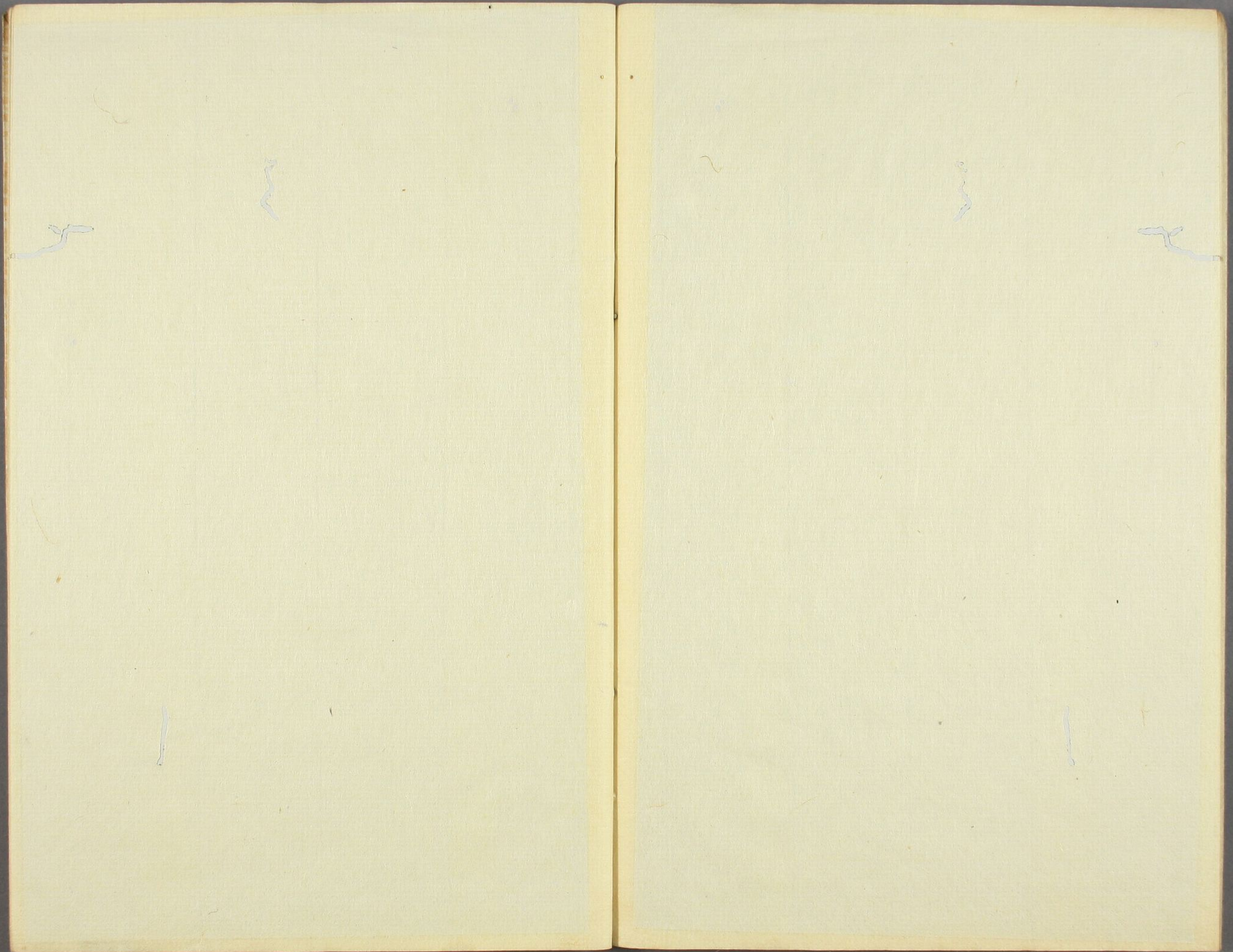
大納言二任後

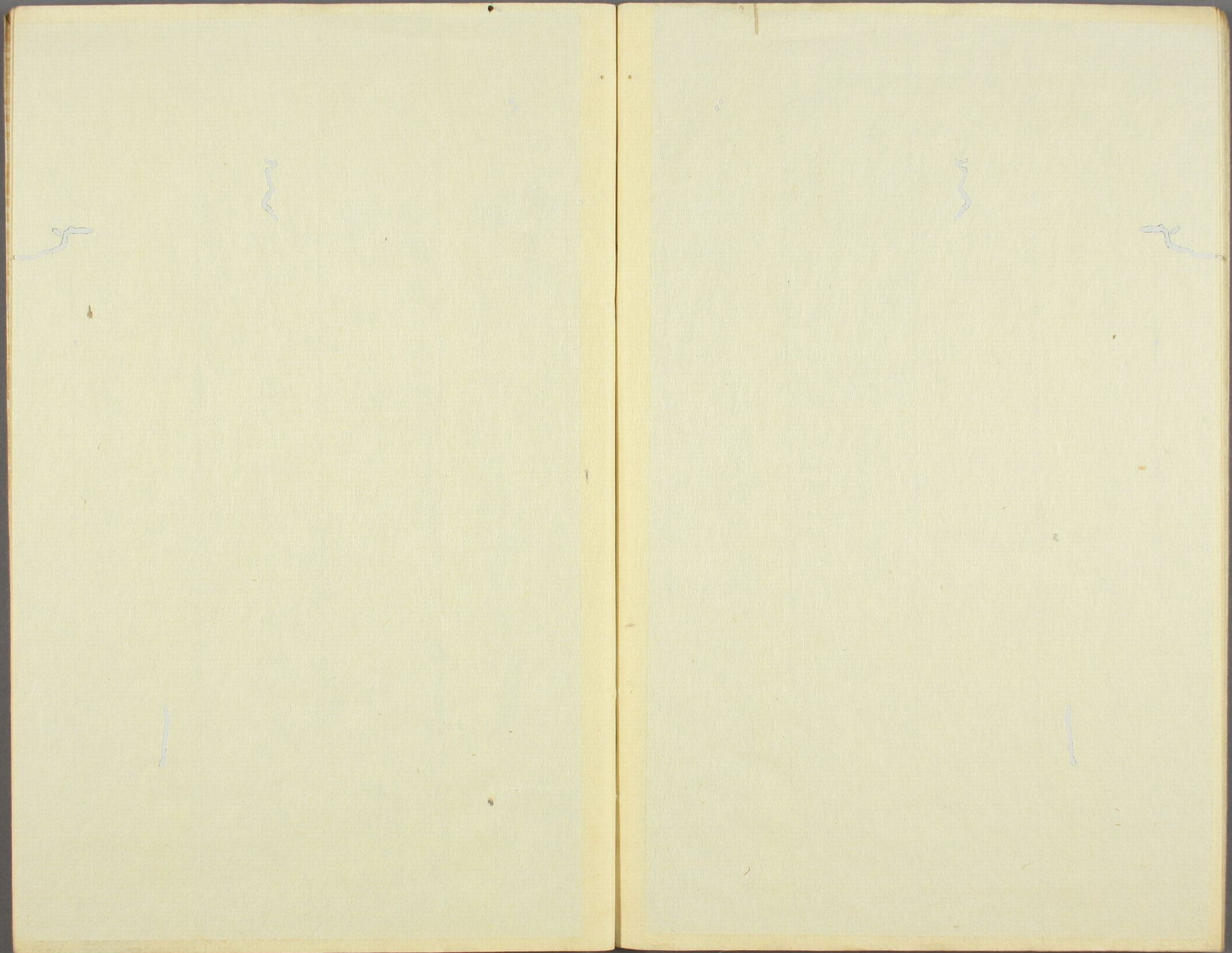
春官集大成

大納言二任後









因辨集

一箇を御まわつて 敬愛とて 歌と講と

つら

後撰歌集

善いふ言ひは こそよきとて けりしる

は見ゆ西園の 山をわけて なる寺人

にきり

新大納言

宿のちを せんぞとて けりしる

是は見ゆ 山をわけて なる寺人

けりしる

今別入道

のちを せんぞとて けりしる

法橋遺集

正元三年三月西園寺の一切経供養の行幸

ゆけりしる 中まわつて 行幸なり

次口人の 敬愛とて なる寺人

新大納言

のちを せんぞとて けりしる

法橋集

正元三年三月

新大納言

は見ゆ西園の 山をわけて なる寺人

ゆけりしる 中まわつて 行幸なり

法見院

おぼろけの梅もあつたもつとつとわらわに古の梅

つ返し 送園の西の東の

おの言のふとちさなれおの言のふとちさなれ

晴れとくつとくつ 三つに

おの言のふとちさなれおの言のふとちさなれ

送園の西の東の 送園の西の東の

晴れとくつとくつ 三つに

おの言のふとちさなれおの言のふとちさなれ

送園の西の東の 送園の西の東の

晴れとくつとくつ 三つに

送園の西の東の 送園の西の東の

おの言のふとちさなれおの言のふとちさなれ

送園の西の東の 送園の西の東の

晴れとくつとくつ 三つに

おの言のふとちさなれおの言のふとちさなれ

送園の西の東の 送園の西の東の

送園の西の東の 送園の西の東の

おの言のふとちさなれおの言のふとちさなれ

送園の西の東の

おの言のふとちさなれおの言のふとちさなれ

正應元年西園寺公兼一切領地をたすむるに  
次の御教を以て事比海をくまひ

進上り國の本をたす

はまらふらふとてあつた御玉をたすむるに

山階入道前左大臣

君のたすむるに御玉をたすむるに

多摩守前左大臣

あつた御玉をたすむるに

正應元年十月三日 天皇為内方遠行幸西園寺  
正應元年十月九日 天皇行幸西園寺

宝治元年二月廿七日 上皇御幸大相国園寺其有御遊  
同 三月三日 上皇御幸西園寺其有和奇御會相國被  
書序

正元元年二月廿日 大宮院來月於西園寺可令供養一切從五矣  
七道諸國會日前後三日禁新殺生之日祇下知官  
同 三月四日 上皇御幸大宮院御幸西園寺

五日 一切從供養也可准御會之由兼日被宣下  
昇 天皇御幸春宮行啓姬宮同後御有舞樂 六日  
有御遊和歌會 七日內之有種御遊幸有資御兩詠  
八日送宣昨日依兩處川 大相國矣矣賜上皇御盃  
拜舞

ウ  
リ  
フ

